

ワークショップ 19

「消化管狭窄治療の進歩」

司会 小澤 壯治（東海大学医学部・消化器外科）

糸井 隆夫（東京医科大学消化器内科）

良悪性にかかわらず消化管狭窄は患者の QOL を低下させる。従来は自己拡張型メタルステントによる姑息的治療や外科的治療が行われてきた。近年、ステント自体の開発が進み自然吸収型ステントも使用できるようになっている。さらには、超音波内視鏡を用いた胃空腸吻合術などの新しいコンセプトの治療法も開発され、消化管狭窄治療も多様化している。本セッションではこうした最新の消化管狭窄治療の進歩を論じたい。